

算数科パート(2年ブロック)

単元名 かけ算(1)

(目指す児童像) 進んで九九を覚え、問題づくりを通して日常生活でも活用できる子

つきたい力		
<p>(A 数と計算) 乗法</p> <p>(3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。</p> <p>① 図や式を使って説明する力</p> <p>② 乗法の計算が確実にできる力</p> <p>③ 日常生活に生かす力</p>	<p><学習内容の確実な定着を図る指導の工夫・改善></p> <p>1 単元を通して楽しく九九を覚える指導の工夫</p> <p>① 九九ビンゴ・問題づくり</p> <p>② 九九チェックカード・神経衰弱</p> <p>2 単元を通した振り返りカードの工夫</p> <p>① 目標に照らした自己評価</p> <p>3 九九の習熟を図る工夫</p> <p>① 複数のカードの活用</p>	<p><学習意欲を高める指導の工夫・改善></p> <p>4 意欲を持たせる工夫・改善</p> <p>① 誤った問題を提示</p> <p>5 意欲を持続させる工夫・改善</p> <p>① 問題を解き合う活動</p> <p>② 「1つ分の数」がわかるヒントカードの活用</p> <p>6 単元を通した振り返りカードの工夫</p> <p>① 意欲の5段階チェック</p>

単元の目標

- 乗法のよさに気付き、ものの全体の個数をとらえる時に進んで乗法を用いようとする。
(算数への関心・意欲・態度)
- 乗法九九が用いられる場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。
(数学的な考え方)
- 乗法が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えることができる。
(数量や図形についての技能)
- 乗法が用いられる場合を理解する。
(数量や図形についての知識・理解)

【本時の授業の実践と考察】

本時(11/26時)

(※ 考察)

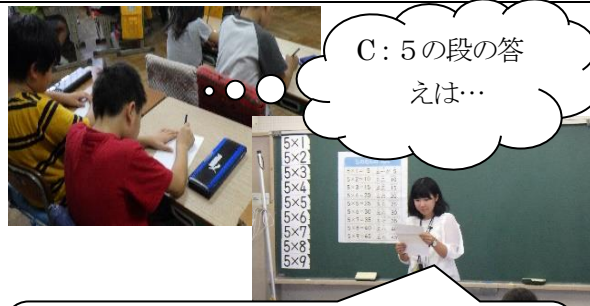
1 5の段の九九ビンゴをする。 手だて**1**-①

2 本時の問題を知る。

問題 5のだんのもんだいをつくろう。

※九九ビンゴをしたことで楽しく九九に取り組むことができた。

※カゾエール小学校の校長先生から届いた手紙を読み、ストーリー性のある導入をしたことで、児童の関心・意欲を高めることができた。

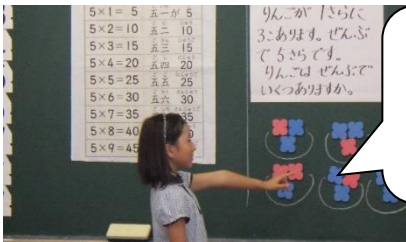


T: カゾエール小学校の校長先生から手紙が届きました。今度は5の段の問題をつくらしてほしいそうです。つくれそうですか。

5の段にならない問題を提示する。手だて4-①

問題 りんごが1さらに3こあります。ぜんぶで5さらです。りんごはぜんぶでいくつありますか。

C: りんごが1皿に5個になると、1つ分の数が5になります。



C: 1皿に3個だと、これでは1つ分の数が3になってしまうので、5の段の問題にはなりません。

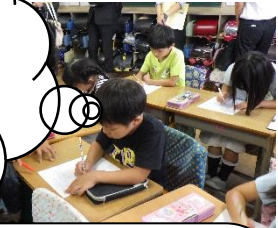


3 問題づくりをして友達と解き合う。手だて5-②

T: 1つ分の数が5になるものは他にどんなものがあるかな。



C: 1箱に5本入りのペンだと1つ分の数が5になるかな。



※ICT機器を活用することで、生活の中にある5つ入りの商品を確認、問題づくりのヒントになった。

C: 1パック5本入りの飲み物が4つあるから、「1つ分の数」が5です。それが4つなので「いくつ分の数」が4になります。式は、 $5 \times 4 = 20$ で答えは20本です。どうですか。

C: Aちゃんの問題は、あめが1袋に5個入っていて、それが6袋だから...

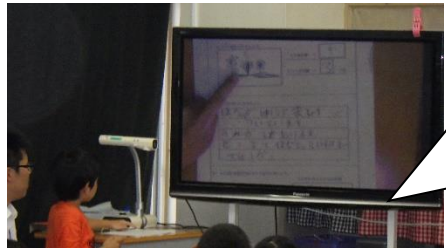


C: 正解です。答えは20本です。



※ただ問題を解き合うだけでなく、1つ分の数が5であること、それがいくつ分あるのかを説明させてから式と答えを伝えることで、1つ分の数を意識させることができた。

4 児童が作った問題を紹介する。



C: 1輪に花びらが5枚ついています。全部で3輪です。花びらは全部で何枚でしょう。

C: 1つ分の数にすると5の段の問題が簡単につくることができました。
C: たし算やひき算の問題はつくったことがあったけど、かけ算の問題のつくり方は初めてだったので、新しい問題のつくり方がわかりました。

5 学習の振り返りをする。手だて2-① 手だて6-①

【指導講評】さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事 田波 巨士先生
○5の段にならない問題を提示し、どこが違うのか考えることで児童の学習意欲の向上につながった。
○ストーリー性のある問題を導入で提示することで、児童の学習意欲の向上につながった。
●5の段のならない問題の誤りを隣同士でも話し合い、一人ひとりに考えさせる時間ととって「1つ分の数が5」になることを意識させるとよかった。
●今後、1つ分の数、いくつ分の数が問題文の先に出たり後に出たりするような、いろいろな場合の問題にも取り組むとよい。